

## 編集後記

### 編集長(ダン シロウ)

世界中がこんなにやりたい放題になるなんて想像できなかった。「ミッション・インポッシブル」みたいなことは映画だからやっているところかどこかで思っていた。なのにもっと酷いことを得意げに吹聴したり、遂行する人間が世の中にこんなにいっぱい居るなんて。そしてそれをまともに反論する覚悟も持たない、世渡り政治家達。

幸せな時代に吹き込まれた世界への基本的な信頼がベースの脳天気爺(私です)は、嫌な不安を抱えながら、それでも何とかなっていて欲しいと希望をつぶやき、自分にできることがある業界で、許される間頑張ろうと思う。

人類が終わってしまわなければ、歴史は大波小波の巾を様々なヴァリエーションで展開しながら続く。ということは、まさかこんな…と思うような事が、これからも繰り返されてゆくのだろう。

己の歳を考えると、もう長期の観察者にはなれないのかもしれない。心残りはあるがお先にと旅立つ事になるのも承知しながら、久米宏さんや筑紫哲也さんは、昨今のトランプ・ニュースを語りたかったのだろうかなんて思った。

第64号とは発刊16年目が完了したことになる。新しい執筆者も登場。もうお一方も次号からとエントリーされている。マガジン原稿は査読や検閲のようなことはしない。執筆者の自由を旨に続いている。

しかし何でも書きたい放題なのではない。昨今のyoutubeを見ながら思うのだが、小市民の軽率な「発信し放題」が世間に溢れている。それを十分浸透させておいて、金も手間もかけた大規模な自画自賛が目的的に侵入してきている。

批判的な発言は誰かが不快だと言ったら、即炎上、バッシングの対象にされる。そこでは事実関係の吟味など重視されない。

昔、「声の大きい奴が勝つのはけしからん」と批判

していた状況が、そんな言い方も許さず、多数派を形成し、選挙結果にまで届く。

繰り返しになるが、こんな世の中が来るとは思わなかった。そんな時だから、出来ることをしておこうと思う。

### 編集員(チバ アキオ)

対人援助マガジン執筆者の岡崎正明さんをゲストに『自分史・家族史づくりがもたらす、相互理解とケアのかたち～援助職がムスコとして味わった物語～』と題して、対人援助学会第35回(通算59回)研究会 [研究会の予定 | 対人援助学会 ヒューマンサービスを科学する](#)を2026年1月23日(金)にオンラインで行いました。対人援助学マガジンで長年連載をしている岡崎さんは、2025年2月『なにくそ!ライゾウさん～僕のおヤジの負けない物語～』(ぞうさん出版) [なにくそ!ライゾウさん: 僕のおヤジの負けない物語 - ZOUSAN BOOKS ぞうさん出版](#)を父親の磊造さんと共著で出版されました。対人援助職として長年臨床に関わってきた岡崎さんは、この本の執筆と出版を通して、経験したこと、そしてその影響等について対人援助職の視点からも話してくださいました。その中で、印象的だったのは、出版社さんとの出会いや著者としての動きです。出版社さんは、本が豊かになるようアイデアをくださって、なおかつその出版社さんの代表のキャラクターもクッキリ。その姿で、著者と一緒に様々なところで表に出てくれていました。また、書いた人が直接書店に出向き、書店に目立つように並べてもらった工夫、その並んだ事実がマスコミにまた取り上げられる…。こうして、本の魅力が伝わり、広がっていく様子もわかりました。それとともに、家族と一緒に自分たちの歩みを題材に共同作業をする価値も改めて感じました。

対人援助学マガジンについて、私もあちこちで話題にして話すようにしています。誰でも読めるし、学会員は連載もできる。そして、連載仲間もできる。先日、講師として会場に行くと、対人援助学マガジンをプリントアウトして準備してくれていることもありました。マガジンの連載が単著の出版につながったり、入試問題に使われたり、授業の資料として用いられたりとかさんの前例もすでにあり、今後の可能性も尽きませ

ん。対人援助学マガジンをみなさまも楽しんでください。そして、対人援助学会研究会でもお待ちしております。

## 編集員(オオタニ タカシ)

私の PC で「対人援助学マガジン」と検索すると、なぜか毎回 2022 年の 51 号が一番上に表示されます。その 51 号の編集後記は、編集長の『突然のウクライナ侵攻からずいぶん時間が経ってしまった…』という書き出しから始まります。あれからもう 4 年。状況は落ち着くどころか、世界はますます「まさか」が通じない混沌の中にあります。権力者が本音を隠さなくなり、それで開き直ってしまえば、最低限の議論も成り立たなくなります。交渉の手札になり得るのは武力なり、財力なり、ともかくシンプルに「パワー」ということなのでしょう。AI によるフェイク画像や動画の氾濫もあり、何が真実なのかもわからなくなり、真実かどうかさえも重要ではなくなってしまうように感じます。そんな中で、日々の営みを続け、ことばを紡いでいくことに、何か徒労感に似た感覚を覚えそうになる時もあります。私たち一市民には、政治や国際紛争に直接介入するような力はありません。ですが、少なくとも自分が何をするかだけは、まだ決めることができます。そんなことを考えながら原稿を書いていると、執筆者の皆さんからの原稿がいつも通りに届きます。同じように日々の営みを続ける人がいる。そのことに励まされながら、今回も編集作業を進めています。

## 対人援助学マガジン

通巻64号

第16巻 第4号

2026年3月15日発行

<http://humanservices.jp/>

マガジンに対するご意見ご感想は

[danufufu@osk.3web.ne.jp](mailto:danufufu@osk.3web.ne.jp)

マガジン編集部

第65号は2026年06月15日

発刊の予定です。

原稿締切 **2026年05月25日!**

## 執筆希望者、常に募集

本誌は常に書き手に門戸を開いています。新たなジャンルからの、執筆者の登場に期待します。自身の生活スケジュールに本誌「連載」を持ち、継続的に、自分だからこそ描ける分野の記録を発信したいという方からのエントリーを待っています。

ページ制限なしの連載誌です。必要な回数、心置きなく書いていただけます。ご希望の方、編集長まで執筆企画をお知らせ下さい。**執筆資格は学会員であること。** 現在非会員で書いていただく事になった方には、本誌は学会ニュースレターの位置づけですので、**対人援助学会への入会**をお願いしています。

対人援助学会事務局

540-0021

大阪市中央区大手通2-4-1

リファレンス内

TEL&FAX学会専用 06-6910-0103

## 表紙の言葉

前号に続いて、「木陰の物語」に登場する、様々な男性が一堂に会した大判のポスターの原画です。こんな登場人物達の物語を月刊誌に描き続けて第313回、27年目に突入しました。生きてる間は描いているのでしょうね、多分。

2026/3/15

## ■ご意見・ご感想■